



NPO法人

丸亀街づくり研究所通信

経営理念『いのちに寄り添い 心をつなぐ』

《 いのちに寄り添い 心をつなぐ 》

令和4年度がスタートしてはや2ヶ月が経ちました。当法人を日頃からご支援ご協力して下さっている皆様方のお陰であり、厚く御礼申し上げます。

令和4年4月19日に第12期の経営指針発表会を開きました。昨年度までは法人のスタッフを中心に行っていたのですが、今年度は香川県子ども家庭課様、子ども女性相談センター所長様、西部子ども相談センター次長様をお招きして、オンラインと丸亀おひさま荘をつないだハイブリッド開催で行いました。この、経営指針書を更新するにあたって「スタッフみんなの声を指針書にのせる」ということを目標にして作りこみました。公法人の経営理念である「いのちに寄り添い、心をつなぐ」を法人の判断基準として行動してきましたが、「いのちに寄り添うとはどういうことだろうか。いのちとは何だろうか。また、寄り添うとはどういうことか。まず、誰と心をつながなければいけないのか。」などをさらに深く考えた一年でした。また、昨年実施した三木高校のインタビューシップを通して「何のために働くのか。」を深く考える事により、自分自身の生きていくための心の底になる深い理（自分自身が大切にしているもの）を考えることになりました。

昨年、指針発表会に残念ながら参加できなかったスタッフの心のバトンもしっかりと一人ひとりが握りしめてよくがんばった一年であったのではないかと振り返ります。また、今年度より新しいスタッフを加わり、新たにみんなで力を合わせて共に育ち合いながら経営理念の実現に邁進して参りたいと思います。

また、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

NPO 法人 丸亀街づくり研究所 理事長 合木 啓雄

《 子どもアドボカシー 》

今年度より新しい事業として「香川県児童養護施設等入所児童の権利擁護に係る実証モデル事業」を受託しました。子どもアドボカシー活動と言って、子どもの声を子どもの立場になって聴き、意見を形成したり、表明したりする支援を行います。子どもがあげた声を適切に受け止める体制を構築して、子どもの権利が尊重される社会をつくることを目的としています。

子どもアドボカシー活動においては、これまで施設等で生活してきた若者達も一緒に取り組んでいきたいと考えています。施設等を退所した若者のこれまでアドボカシーされたことやされなかったことに耳を傾け、声にならない声や言葉にならない気持ちに親身になって聴く事ができるようにしていきたいと思っています。

《 寄付をして下さった方々 》(順不同)

- ・香川県共同募金様
- ・オアシス丸亀様
- ・圓通寺様
- ・斎藤敬三様
- ・横田恵子様
- ・芥嘉美様
- ・小川洋子様
- ・木下農園様
- ・中島健三様
- ・中岡聡様
- ・Life-do. Plus 様
- ・シエル様
- ・奥村登喜子様
- ・辻野様
- ・直木洋子様
- ・シードラゴン様
- ・リトルマーメイド様
- ・餃子の王将様
- ・高松市社会福祉協議会様
- ・香川県社会福祉協議会様
- ・たかまつ子ども食堂ネットワーク様



★香川県共同募金会様より「NHK 歳末たすけあい寄付金」による助成金でテレビとブルーレイレコーダーを頂きました。コロナ禍で外出が制限される中、ブルーレイで好きなアーティストのライブを観たりして楽しんでいます。



★NPO 法人子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀様には、毎週野菜やおかし、飲み物などたくさんの寄付を頂いております。お陰様で、子どもたちと旬の新鮮でおいしい野菜の話をしたり、感謝の気持ちをもって食事を楽しむことができます。



第 34 号丸亀街づくり研究所 令和 4 年 6 月 23 日発行
 発行者 NPO 法人 丸亀街づくり研究所
 〒763-0082 香川県丸亀市土器町東 8 丁目 463 番地 1
 TEL:0877-85-3323 E-mail:ohisama@atbb.ne.jp



若者独立塾

丸亀おひさま荘通信

《ひとりひとりとは？》

4月に入り子どもたちは進級、入学と新たな一步を踏み出しました。緊張や不安を乗り越え、毎日学校に通い、頑張っている姿があります。

子どもたちが学校や職場で頑張れるのは、安心して生活できること。外でしんどかったことを聞いてくれる人がいること。帰ってきて心も体もしっかり充電できること。

それを忘れずに日々支援していきたいと思っています。

実際の毎日は思いが伝わらず気持ちがすれ違い、ひとりひとりに合う支援をしているつもりが、「不公平だ」、「なんで他の子ばかり」という訴えが多くあります。

先日イライラが溜まっていた女子に「皆平等にしてよ!」と言われて「ひとりひとり同じにはできんけど精一杯しよるわ!」と私も気持ちをぶつけてしまったことがあります。スタッフとして自問自答しながらの毎日ですが、悩んだり落ち込んだり、小さな一歩を喜んだりしながら、子ども達と共に進んで行きたいと思います。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 主任補佐 加地 三千代

《3歩進んで2歩下がる》

毎日、本当に何が起こるかわからない!という経験をさせてもらっています。まだまだ緊張しながらの日々ですが、少しでも子どもとの心の距離が縮められるように模索しています。私が座っていたら、隣に座ってきてくれるぐらいの近さになっていけるように頑張ります。3歩進んで2歩下がる♪ 昨日より1歩、前進していきたいなあ〜。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 生活支援員 谷口 智美

《すべての経験は無駄にならない》

「先を見据えて点と点をつなぐことはできない。点と点がつながるかどうかは、あとになってみないとわからない。だから、今という点がいつつながり、線になることを信じるしかない。」これはスティーブ・ジョブズのことばです。

気力と体力がすり減る日々ではありますが、私もジョブズのように、すべての経験は無駄にならないと信じて、“今”を大切に、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 生活支援員 福崎 結香

若者独立塾 丸亀おひさま荘

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1

TEL:0877-85-3323 FAX:0877-43-6929

E-mail:ohisama@atbb.ne.jp



自立援助ホーム

nature 通信

《 旅立ち そして… 》

この春 nature では、二人が夢を叶えるために巣立って行きました。こんな事が出来たのでは。あんな事も出来たのではと、思う日々ですが、彼たちの力を信じ、見守っていこうと思っています。そして、入所中の彼らも、夢と現実の間で思い悩む事が多く、そんな彼たちが best な選択が出来るようスタッフも日々思い悩んでいます。彼らが、nature にいる間にたくさん悩み、生活する力、困難に立ち向かう力、回避する力…等々たくさんの力をつけて巣立って行ってくれればと思います。そして、我々スタッフは、今もこれからも彼らの応援団でいようと思っています。

自立援助ホーム nature 主任 大馬 明代

《 退所者 A 君に質問してみました！！ 》

★退所して困ったことは？

「退所して自由になった反面、生活リズムが乱れ始めた。」

★退所して自信がついたことは？

「生活に慣れてきて、できることが増えてきた。」

★今の生活は楽しいですか？

「楽しい!! (自分の思うままに生活ができること)」

★これからがんばっていこうと思っていることは？

「崩れ始めた生活リズムを修正していきたい。」

★nature のみんなへのメッセージをどうぞ。

「退所すると、何かと今まで自分の手になかった面倒なことを抱え込むことになる。だから退所前からそれらを知っておくといいです。」



問に答えてくれた彼は3月に退所して大学に入学し、寮生活を送っています。これからも nature では彼の生活を温かく見守っていこうと思います。



自立援助ホーム nature (なちゅれ)

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東 7 丁目 208 番地

ヴェルヴェゾン土器 101 号室

TEL:0877-85-3375 FAX:0877-85-3376

E-mail:nature@atbb.ne.jp



アフターケア事業所

わっかっか通信

《ハッピー ラッキー ラブ スマイル ピース ドリーム！》

アンミカさんってご存知ですか？ある番組で、「目の前のおしぼりをほめてください」と言われたときに「白って200色あんな〜！」と始まり、なんの変哲もない白いおしぼりをほめちぎりましたと。私は爆笑したと同時に褒める天才だと感動しました。うちのスタッフにもほめ上手がいます。ほめられた若者たちはみんないい顔をして「あの人、私のこと好きなんよ。」とニヤニヤしながらそのスタッフのことも好きになって帰っていきます。アフターケアネット連絡会をした時にある援助ホームの方が「あえて皆のいるところで「あなたが幸せになることを願ってるんよ」と言葉にして言います。そうやって切れない関係性を結んでいます。」と教えてくれました。自分の幸せを願う言葉や好意的な言葉を投げかけられるだけで関係性にまで良い影響を及ぼすことを知りました。なかなか恥ずかしくて表現できないけれど、ポジティブな言葉を投げかけることで起きてくる前向きなパワーを感じています。

アフターケア事業所 わっかっか 主任 越智 萌

《 最近では・・・ 》

最近では、わっかっかに遊びに来て、料理をしてくれる子どももいます。以前までは、遊びに来て、一緒にご飯を食べるだけでしたが、最近では、一緒に料理を手伝ってくれる子どもが増えています。中には、自分ひとりだけで作る子どももいます。また、手慣れた手つきでフライパンをひっくり返して、料理を作ってくれる子どももいて、日々の生活ぶりが目に浮かびます。その姿を見ると、「毎日料理をしているのだから遊びに来た時くらい何もしなくていいよ」と親心でそう言ってしましますが、子どもは一緒に料理ができるのが嬉しいようで、「お手伝い好きだから」と言います。また、出来上がった料理と一緒に食べながら、隠し味を教えてくれる子どももいます。

食事を囲み、色々な話をし、嬉しそうな表情で食事をする姿を見ると、いつまでも、その笑顔を見ていたい気持ちにもなります。あなたの笑顔が大好きだよと密かに思いながら、この笑顔を守っていける存在でありたいと思います。

アフターケア事業所 わっかっか 就労相談支援担当職員 大内 実千代

アフターケア事業所 わっかっか たかまつ

〒760-0063 香川県高松市多賀町2丁目11-13 2階

TEL:087-802-6681 FAX:087-802-6682

E-mail:wakkakka2017@air.ocn.ne.jp

アフターケア事業所 わっかっか まるがめ(丸亀おひさま荘内)

E-mail:wakkakka2017@air.ocn.ne.jp



アドボカシー事業所

ここまい通信

事業所名はアドボカシーかがわ（仮）から『ここまい』に決まりました！

この度、権利擁護に関わる実証モデル事業の委託をいただき、アドボカシー活動に取り組みます。事業所名を考えるにあたり、スタッフは頭を抱えていましたが、基本に戻り、アドボカシーは子どものマイクだから当事者たちの声を聴こうということとなり、わっかふえに参加をしている施設を退所した若者たちに聞いてみる事にしました。ワイワイガヤガヤ言いながら事業所名は、“心のマイク”を略して“ここまい”に決まりました。子どもたちと一緒に考えていくことで産まれてくる子どもに名前を考えているのと同じ気持ちにもなりました。また、アドレスについても本来ならば“kokomai”ですが、“cocomai”の“c”が耳のように見えるので、聴くという意味を込めて、“c”から始まる“cocomai”にしました。これから、事業が始まることでつまずくこともあるかと思いますが、我が子のように考えたこの名前と時間を大事にして、また、子どもたちがその時に話してくれた事を思い出しながら、これから取り組んでいこうと思います。

「アドボカシー」
ってなあに??



只今！！子どもの声を聴くアドボカイトさん(有償ボランティア)を募集しています！！

『アドボカシー』と聞くと「なんだろう？」と思いますが、子どものマイクとなり子どもの意見を聴く事、そして子どもの意見形成や意見表明することを支援します。普段からアドボカイトの役割をしている時も多々あります。ただ、なかなか子どもの声をうまく届けられず伝わらなくて、私自身も悩む時もあります。私のジレンマが強い時は、子どもの心の声がとても大きく深い悲しみや不安であると思うようにしています。子どもと共に考えて進んでいこうと思いますが、私自身も未熟なためなかなかうまくいかずスムーズにはいきません。しかし、子どもが勇気を出して気持ちを伝えてくれたように私も勇気を出して、子どものマイクとなり代弁して本人の希望が叶うように少しでも進んでくれればいいなと思っています。少しでも多くの子どもの意見が通り、自分の声をきいてくれて、理解してくれる大人が増えるといいなと思います。まだまだ未熟ではありますが、日々精進して子どもと共に成長できるように今後も頑張っていこうと思っています。

アドボカシー事業所 ここまい アドボカイトファシリテーター 大内 実千代

アドボカシー事業所 ここまい

〒760-006 香川県高松市多賀町2丁目11-13 2階

TEL:087-802-5727 FAX:087-802-6682